

「国際会議を支える人々」立松 美也子

国際会議で不可欠な役というのは何でしょうか？会議に参加する人はもちろんのことながら、会議を順調に進行するためには、それを支える裏方の人も必要です。しかし、言語を異にする人々が参加する「国際」会議の場合、裏方役のなかで特に不可欠なのは、会議に参加する人々の間の意思疎通を潤滑にする「同時通訳者」ではないでしょうか。

国連では、連日、いろいろな国際会議が開催されています。そして、国連は当然のことながら、母国語が異なる人々が集う場であり、複数の言語が使われる場となっています。国連では、国連公用語というものが決まっています。国連公用語は、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、そして、中国語です。アラビア語は準公用語です。これらの公用語(アラビア語を含めて)が一般的に国連の会議で使われます。そして、これらの言語の間については、国連の負担で通訳がおこなわれます。ちなみに、国際労働機関(ILO)の総会には、日本企業の負担で日本語の通訳がついていますが、これは特別なケースです。

同時通訳者は、会議場が見えるけれども奥まった別個の部屋に大体二人組でいます。そして、彼らは会議でおこなわれる発言をつぎつぎと担当の言語に通訳していきます。同時通訳者は国連公用語すべてに通じているわけではありません。つまり、通訳できる言語を聞いて担当言語に通訳するのです。たとえば、中国語はできないが、フランス語はできる通訳者は、中国語のスピーチがおこなわれた場合、中国語からフランス語になった通訳を聞いて担当の言語にします。長いスピーチがおこなわれる場合、前もって原稿が渡されることもあります。しかし、会議場で他国の発言を受けてなされるスピーチの場合、原稿などありません。同時通訳の力量が試される場となります。

国連における同時通訳者のお給料は、他のポストに比べ、高いと聞いたことがあります。会議が紛糾し、決定に至れず、会議を延長したいと会場の参加者がたと思っても、国連の予算は決まっています。その結果、同時通訳者の給料が予算オーバーで払えない場合、会期延長は不可能です。国連の会議が夜9時半をすぎてやった時、同時通訳者の方から、「通訳はもう退室します。」と発言したのを、私は聞いたことがあります。そして、確かに、会議は終わりました。同時通訳者なしには、国連、国際会議は動いていけないことのあらわれを見た気がしました。